

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-193035

(43) 公開日 平成11年(1999) 7月21日

(51) Int. Cl.⁶

B 65 D 25/28

識別記号

1 0 2

F I

B 65 D 25/28

1 0 2 B

審査請求 有 請求項の数 9 F D (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平9-367961

(22) 出願日 平成 9 年(1997) 12月29日

(71) 出願人 538009337

黒田 克巳

大阪府八尾市太田新町 8 番 225 号

(71) 出願人 000234904

八洲工業株式会社

東京都北区田端新町 2 丁目 2 番 16 号

(72) 発明者 黒田 克巳

大阪府八尾市太田新町 8 番 225 号

(72) 発明者 田中 雅弘

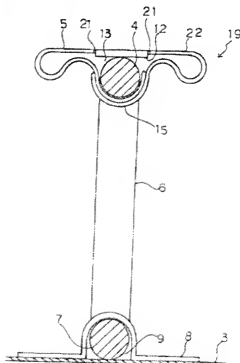
埼玉県坂戸市三光町 53 番 8 号

(54) 【発明の名称】 包装容器用提手の把持片、包装容器用提手及び包装容器

(57) 【要約】

【課題】 大きな偏荷重などが掛かってもねじれたり端方が潰れたり裂けたりしない高い安全を実現し、さらに小資源化を可能とする包装容器用提手の把持片と、この把持片を有する包装容器用提手及び包装容器を提供するにある。

【解決手段】 提手環 6 と該 6 を被嵌した把持片 5 と提手環固定部材 8 により包装容器の提手 19 を構成している。把持片 5 は、金属製薄板部材からなり略中央の前後両端方にリブ 10 を形成した四角形のブランク 11 のリブ 10 を内側に折畳込んで補強部 12、12 を形成し、側部両側を同じように下方に三つの山が形成されるような形状に折曲げ、中央の被嵌部 13 の下部においてブランク 11 の側部端方が重なり合うようにした二重底部 15 を形成した構成となっている。すなわち、把持片本体 22 の天井部の前後両端に補強部 12、12 が設けられた構成となっている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 缶などの包装容器の天板などに取り付けられた提手環などの提手の持手部分を被嵌するように設けられる、握った手を保護し持ち易くするための把持片であって、
把持片本体と、

この把持片本体の両端方に形成されたリブあるいは該把持片本体の両端方の全部を折畳み内巻などして形成した補強部とからなり、

この補強部の形成部位が包装容器を持ち上げたときに被嵌された持手部分の荷重が掛かる部位に形成されてなることを特徴とする包装容器用提手の把持片。

【請求項2】 缶などの包装容器の天板などに取り付けられた提手環などの提手の持手部分を被嵌するように設けられる、握った手を保護し持ち易くするための把持片であって、
把持片本体と、

この把持片本体の両端方に形成されたリブあるいは該把持片本体の両端方の全部を折畳み内巻などして形成した補強部とからなり、

この補強部が前記把持片本体の天井側に形成されてなることを特徴とする包装容器用提手の把持片。

【請求項3】 缶などの包装容器の天板などに取り付けられた提手環などの提手の持手部分を被嵌するように設けられる、握った手を保護し持ち易くするための把持片であって、
把持片本体と、

この把持片本体の両端方に形成されたリブあるいは該把持片本体の両端方の全部を折畳み内巻などして形成した補強部とからなり、

この補強部が形成される部位が、被嵌された持手部分の位置する天井側部位と該持手部分の下部が当たり荷重が掛かる部位に形成されてなることを特徴とする包装容器用提手の把持片。

【請求項4】 缶などの包装容器の天板などに取り付けられる提手であって、 提手環と、

この提手環の持手部分を被嵌するように設けられた、握った手を保護し持ち易くするための把持片と、

この把持片の手で握る部分を構成する把持片本体と、
この把持片本体の両端方に形成されたリブあるいは該把持片本体の両端方の全部を折畳み内巻などして形成した補強部とからなり、

この補強部の形成部位が包装容器を持ち上げたときに持手部分の下部が当たり荷重が掛かる部位に形成されてなることを特徴とする包装容器用提手。

【請求項5】 缶などの包装容器の天板などに取り付けられる提手であって、

提手環と、
この提手環の持手部分を被嵌するように設けられた、握った手を保護し持ち易くするための把持片と、

この把持片の手で握る部分を構成する把持片本体と、
この把持片本体の両端方に形成されたリブあるいは該把持片本体の両端方の全部を折畳み内巻などして形成した補強部とからなり、

この補強部が前記把持片本体の天井側に形成されてなることを特徴とする包装容器用提手。

【請求項6】 缶などの包装容器の天板などに取り付けられる提手であって、

提手環と、
この提手環の持手部分を被嵌するように設けられた、握った手を保護し持ち易くするための把持片と、

この把持片の手で握る部分を構成する把持片本体と、
この把持片本体の両端方に形成されたリブあるいは該把持片本体の両端方の全部を折畳み内巻などして形成した補強部とからなり、

この補強部の形成部位が被嵌された持手部分の位置する天井側部位と該持手部分の下部が当たり荷重が掛かる部位に形成されてなることを特徴とする包装容器用提手の把持片。

【請求項7】 缶などの包装容器本体と、
この包装容器本体の天板上に取り付けられた提手環と、
この提手環の持手部分を被嵌するように設けられた、握った手を保護し持ち易くするための把持片と、

この把持片の手で握る部分を構成する把持片本体と、
この把持片本体の両端方に形成されたリブあるいは該把持片本体の両端方の全部を折畳み内巻などして形成した補強部とからなり、

この補強部の形成部位が被嵌された持手部分の荷重が掛かる部位に形成されてなることを特徴とする包装容器。

【請求項8】 缶などの包装容器本体と、
この包装容器本体の天板上に取り付けられた提手環と、
この提手環の持手部分を被嵌するように設けられた、握った手を保護し持ち易くするための把持片と、

この把持片の手で握る部分を構成する把持片本体と、
この把持片本体の両端方に形成されたリブあるいは該把持片本体の両端方の全部を折畳み内巻などして形成した補強部とからなり、

この補強部が前記把持片本体の天井側に形成されてなることを特徴とする包装容器。

【請求項9】 缶などの包装容器本体と、
この包装容器本体の天板上に取り付けられた提手環と、
この提手環の持手部分を被嵌するように設けられた、握った手を保護し持ち易くするための把持片と、

この把持片の手で握る部分を構成する把持片本体と、
この把持片本体の両端方に形成されたリブあるいは該把持片本体の両端方の全部を折畳み内巻などして形成した補強部とからなり、

この補強部の形成部位が被嵌された持手部分の位置する天井側部位と該持手部分の荷重が掛かる部位に形成されてなることを特徴とする包装容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、缶などの包装容器の天板などに取り付けられる包装容器用握手の把持片、包装容器の天板などに取り付けられる包装容器用握手及び握手に特徴のある包装容器に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の握手の把持片としては実開昭54-64667号、特開昭56-17134号、特開昭55-126046号があり、これらのものはいずれも一枚の金属製薄板部材を折曲成形して握手環の持手部分を被嵌するものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上述した従来技術の把持片は、一枚の金属製薄板部材を単に折曲げて成形したものであるため、内容物の詰まった重量のある包装容器を持ち上げたときには把持片や握手環固定部材に大きな荷重が掛かり、また握手を持つての運搬の際には偏荷重が掛かるものであった。このために述べるような問題が生じていた。

(1) 把持片と握手環固定部材の一枚板からなる強度の弱い端方が壊れてしまったり裂けてしまったりして鋭利な状態となり、手を負傷させてしまうという問題が生じていた。

(2) 安全性を高めるため、金属製薄板部材を厚くして把持片を丈夫にしようとすると加工が難しくなり、そのため生産性も悪く材料コストも高くなるという問題を持つものであり、小資源化にも逆行するものであった。

【0004】本発明は以上のような従来技術の問題点に鑑みてなされたものであって、その目的は、大きな偏荷重などが掛かってめくれたり端方が壊れたり裂けたりしない高い安全を実現し、さらに小資源化を可能とする包装容器用握手の把持片と、この把持片を有する包装容器用握手及び包装容器を提供するにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】前述した目的を達成するために、包装容器用握手の把持片の発明は、缶などの包装容器の天板などに取り付けられる握手環などの握手の持手部分を被嵌するように設けられる、握った手を保護し持ち易くするための把持片であって、把持片本体と、この把持片本体の両端方に形成されたリブあるいは該把持片本体の両端方の全部を折畳み内巻などして形成した補強部とからなり、この補強部の形成部位が包装容器を持ち上げたときに被嵌された持手部分の荷重が掛かる部位に形成されてなることを特徴とする。また、補強部が前記把持片本体の天井側に形成されてなるものもよい。また、補強部が持手部分が位置する天井側部位と該持手部分の下部が当たり荷重が掛かる部位に形成されてなるものもよい。また、補強部は三重以上に折畳み内巻の、中を中空になるように巻き込んだものなども含まれ

るものである。

【0006】包装容器用握手の発明は、缶などの包装容器の天板などに取り付けられた握手環などの握手の持手部分を被嵌するように設けられる、握った手を保護し持ち易くするための把持片であって、把持片本体と、この把持片本体の両端方に形成されたリブあるいは該把持片本体の両端方の全部を折畳み内巻などして形成した補強部とからなり、この補強部が被嵌された持手部分の下部が当たり荷重が掛かる部位に形成されてなることを特徴とする。また、補強部が前記把持片本体の天井側に形成されてなるものもよい。また、補強部が被嵌された持手部分が位置する天井側と該持手部分の下部が当たり荷重が掛かる部位に形成されてなるものもよい。

【0007】包装容器の発明は、缶などの包装容器本体と、この包装容器本体の天板上に取り付けられた握手環と、この握手環の持手部分を被嵌するように設けられた、握った手を保護し持ち易くするための把持片と、この把持片の手で握る部分を構成する把持片本体と、この把持片本体の両端方に形成されたリブあるいは該把持片本体の両端方の全部を折畳み内巻などして形成した補強部とからなり、包装容器を持ち上げたときに前記補強部が被嵌された持手部分の下部が当たり荷重が掛かる部位に形成されてなることを特徴とする。また、補強部が前記把持片本体の天井側に形成されてなるものもよい。また、補強部が被嵌された持手部分の天井側と該持手部分の下部が当たり荷重が掛かる部位に形成されてなるものもよい。

【0008】

【発明の実施の形態】本発明の実施の形態を図面を参照しながら説明する。

【0009】<実施の形態1>図1は本発明の実施の形態1を示す斜視図、図2は同じ実施の形態1の握手部分の平面図、図3は同じ実施の形態1のA-A線断面図、図4は同じ実施の形態1の握手部分の中央縦断面図、図5は同じ実施の形態1の把持片のプランクを示す平面図、図6は同じ実施の形態1の把持片のプランクの打ち抜き状態を示す従来のものと比較した平面図、図7は同じ実施の形態1の握手環固定部材のプランクの平面図である。一斗缶からなる包装容器1は、持手部分4に把持片5を回転自在に被嵌させた金属製の握手環6の下部7を握手環固定部材8の被嵌部9に回転自在に被嵌させておいて、包装容器本体2の天板3に握手環固定部材8を溶接した構成となっている。握手環6は、鉄線部材を逆台形状の環に成形したもので、上部が手で握る持手部分4となり下部が握手環固定部材8により回転自在に天板3に固定される下部7を構成している。握手環6と該6を被嵌した把持片5と握手環固定部材8により包装容器の握手19を構成している。把持片5は、金属製薄板部材からなり略中央の前後両端方にリブ10を形成した四角形のプランク11のリブ10を内側へ折曲は

んで補強部12、12を形成し、側部両側を同じように下方に三つの山が形成されるよう変形に折曲げ、中央の被嵌部13の下部においてブランク11の側部端方が重なり合うようにした二重底部15を形成した構成となっている。すなわち、把持片本体22の天井部の前後両端に補強部12、12が設けられた構成となっている。リップは内側に折畳んだり巻込んで成形するのが一般的である。二重底部15を形成する前に提手環6の持手部分4をセットしておいて二重底部15を成形し、回転自在に把持片5を提手環6に被嵌する。補強部12、12は被嵌部13の天井板の中央すなわち持手部分4の真上に位置する部位に形成されている。21は補強部12を形成した際に、補強部12が把持片本体22から外側に突出しないようにし且つバリが生じないようにするために滑らかな湾曲にカットしたの逃げ部である。金属製薄板部材からなる提手環固定部材8は、中央に提手環6の下部分7が被嵌される被嵌部9を形成した構成となっている。ブランク11のリップ10部分は従来の製造工程において生ずる屑部分を使用している。図6において、ブランク11の打抜状態(ロ)を従来の打抜状態(イ)と比較している。図6の(イ)において、打抜材料23から従来のブランク24が打ち抜かれている。図6の(ロ)において、ブランク24にリップ10を設けてなるブランク11が打抜材料23から打ち抜かれている。

【0010】包装容器1は以上のような構成となっているので、次に述べるような効果を奏する。補強部12、12が把持片本体22の天井部に形成されているので、天井部分の強度が大きくなるので、持たまま運搬しても振れることがなくなり、偏荷重が掛かり難く、また端部が壊れることもなく安全な把持片を有する包装容器を実現している。更に、その製造においては、従来のブランク成形時の屑部分の一部をリップとし、該屑部分の端方になる部分を折り畳んだりすることにより補強部を形成することができるので、屑を減らし従来の生産ラインにおいて製造コストを上げることなく生産することができる。また、従来のものより薄肉の金属製薄板部材を使用しても十分な強度と安全性を得ることができ、コストの削減を実現し安全性を高める安価な製品の提供を実現する。特に補強部を三重以上とすることにより材料の薄肉化を可能とし、この薄肉化により素材のプレス成形による任意の場所の凸凹化の容易な形成を可能とする。この相乗効果により安価な薄肉材による安全な把持片を実現し省資源化を実現する。

【0011】＜実施形態2＞図8は本発明の実施の形態2を示すA-A線断面図、図9は同じ実施の形態2のブランクの平面図である。提手30は、提手19の把持片5を把持片31に代えたものである。把持片31は、ブランク35においてブランク11の構成に加えて該ブランク11の一方の角部にリップ32、32を設けたものである。把持片31に成形した際に底部に補強部34

が外側に形成され、底部縁が三重となった底部33を形成している。最も荷重が掛かり壊れる場所である底部が補強部34により強化され、壊れる危険がなくなり安全になる。また、天井の補強部12と補強部34により全体の強度も強化されより偏荷重に強い構造を実現している。また、従来のものより安全性を高めた上に、把持片の材料をより薄いものとするのが可能となり、より安価な把持片の提供を可能とする。

【0012】＜実施の形態3＞図10は本発明の実施の形態3を示すA-A線断面図、図11は同じ実施の形態3のブランクの平面図である。提手40は、提手19の把持片5を把持片41に代えたものである。把持片41を形成するブランク42は、四角形の金属性の板部材の前後に該前後の両角側を少し削って形成したリップ43、43が設けられた構成となっている。リップ43、43を折畳んで補強部45を形成しておいてブランク42の略半分を二つの山が形成されるように変形に形成し、リップ43、43が形成されていない角側を半円状態に形成し、ブランク42の略中程を折曲げて前記半円状態の角側を重ねあわせて略円形状にプレス成形して、中央に被嵌部44を有し該44の一方の側に角側を円形状で重ね合わせた凸部46を有し、もう一方側に補強部45に覆われた凸部47を有した構成の把持片41を形成する。把持片41は、凸部46以外の全縁が補強部45が形成された極めて強靱な構造を実現しており、材料の肉厚を薄くするのに最も適している。

【0013】＜実施の形態4＞図12は本発明の実施の形態4を示すA-A線断面図、図13は同じ実施の形態4のブランクの平面図である。提手50は、提手19の把持片5を把持片51に代えたものである。把持片51を形成する四角形の金属製薄板部材からなるブランク52は、該51に成形すると中央の被嵌部の天井と底部に補強部がそれぞれ形成される部位に天井リップ53、53と底部リップ54、54が設けられ、前方の天井リップ53から後方の天井リップ53にかけた両側に凹部58、58が形成された構成となっている。天井リップ53、53と底部リップ54、54を折畳み天井補強部55と底部補強部56を形成し、ブランク52を略中央で直角以上に折り曲げ、提手環6の持手部分4を天井補強部55部分に当て、ブランク52を折畳みプレス成形して両側部側を円形状に巻き込んで把持片51及び提手50を成形する。このようにしても、偏荷重に強く、荷重が掛かり易く壊れ難く、より薄い板部材の使用を可能とした把持片を実現する。特に凹部58、58を補強部53の両側に設けることにより、より振れに強く強度のある安全な提手を実現している。

【0014】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の包装容器用提手の把持片の発明は次に述べるような効果を奏する。把持片の最も荷重が掛かり壊れ易く割れ易い部分を

少なくとも二重構造で且つ縁が曲げにより滑らかな曲面を形成する補強部となっているので、強度が大きく大きな荷重が掛かっても壊れたり折れたりすることが無く、壊れた場合でも縁が曲面を形成しているので手を負傷させる心配のない安全な包装容器用提手の把持片を実現している。また、補強部により把持片全体の強度も大きくなるので、持たまま運搬しても壊れないので荷重が掛かり難い把持片を実現している。また、その製造においては、従来のブランク成形時の肩部分の一部をリブとしたり、該肩部分の端方になる部分を折り畳んだりすることにより補強部を形成することができるので、肩を減らし従来の生産ラインにおいて製造コストを上げることなく生産することができる。また、従来のものより薄肉の金属製薄板部材を使用しても十分な強度と安全性を得ることができ、コストの削減を実現し安全性を高めた安価な製品の提供を実現する。また、補強部が把持片本体の天井側に形成されているものは、天井部分の強度が大きくなるので、持たまま運搬しても振れることがなくなり、荷重が掛かり難い安全な把持片を実現する。また、補強部が天井側と持手部分の荷重が掛かる部位に形成されてなるものもは、上下に補強部が形成されているのでより荷重に強く全体の強度も大きい把持片を実現するのでより安全であり、薄肉の板部材による把持片の実現に最も適している。

【0015】包装容器用提手の発明は、本発明の把持片を提手環などの提手の持手部分に被嵌するように設けてなるものであるので、前記把持片の発明の効果と同じような効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態1を示す斜視図。

【図2】本発明の実施の形態1の提手部分の平面図。

【図3】本発明の実施の形態1のA-A線断面図。

【図4】本発明の実施の形態1の提手部分の中央縦断面図。

【図5】本発明の実施の形態1の把持片のブランクを示す平面図。

【図6】本発明の実施の形態1の把持片のブランクの打ち抜き状態を示す従来のものと比較した平面図。

【図7】本発明の実施の形態1の提手環固定部材のブランクの平面図。

【図8】本発明の実施の形態2を示すA-A線断面図。

【図9】本発明の実施の形態2のブランクの平面図。

【図10】本発明の実施の形態3を示すA-A線断面図。

【図11】本発明の実施の形態3のブランクの平面図。

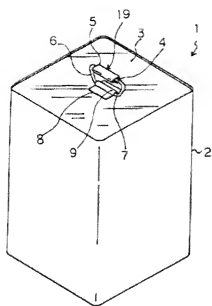
【図12】本発明の実施の形態4を示すA-A線断面図。

【図13】本発明の実施の形態4のブランクの平面図。

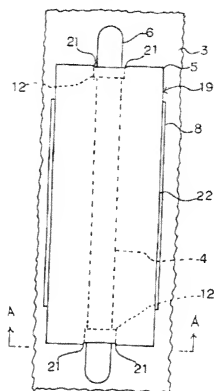
【符号の説明】

- 1 --- 包装容器
- 2 --- 包装容器本体
- 3 --- 天板
- 4 --- 持手部分
- 5 --- 把持片
- 6 --- 提手環
- 7 --- 下部分
- 8 --- 提手環固定部材
- 9 --- 被嵌部
- 10 --- リブ
- 11 --- ブランク
- 12 --- 補強部
- 13 --- 被嵌部
- 15 --- 二重底部
- 16 --- ブランク
- 19 --- 提手
- 21 --- 逃げ部
- 22 --- 把持片本体
- 23 --- 打抜き材料
- 24 --- ブランク
- 30 --- 提手
- 31 --- 把持片
- 32 --- リブ
- 33 --- 底部
- 34 --- 補強部
- 35 --- ブランク
- 40 --- 提手
- 41 --- 把持片
- 42 --- ブランク
- 43 --- リブ
- 44 --- 被嵌部
- 45 --- 補強部
- 46 --- 凸部
- 47 --- 凸部
- 48 --- 把持片本体
- 50 --- 提手
- 51 --- 把持片
- 52 --- ブランク
- 53 --- 天井リブ
- 54 --- 底部リブ
- 55 --- 天井補強部
- 56 --- 底部補強部
- 57 --- 把持片本体
- 58 --- 凹部

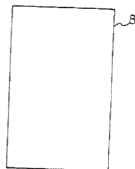
【図1】



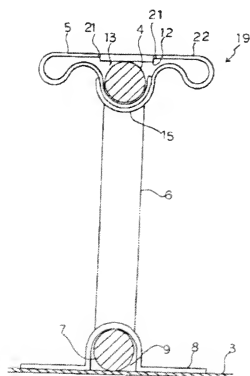
【図2】



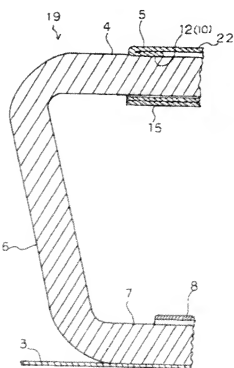
【図7】



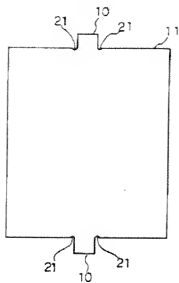
【図3】



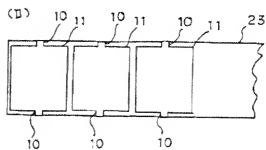
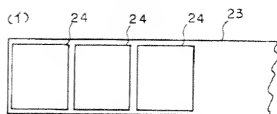
【図4】



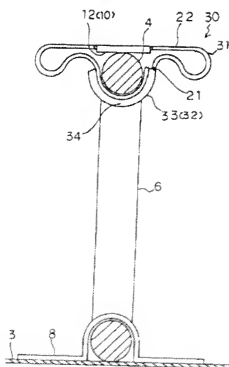
【図5】



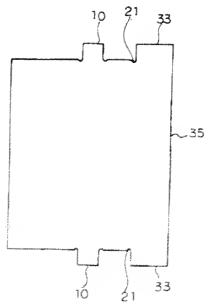
【図6】



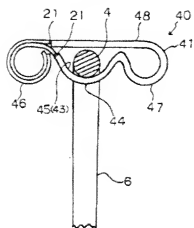
【図8】



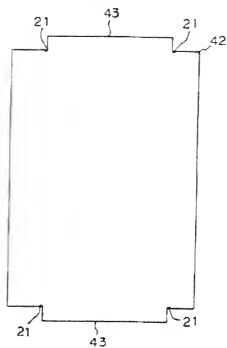
【図9】



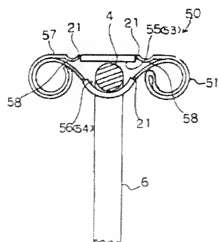
【図10】



【図11】



【図12】



【図13】

